

1. 「里浜づくり」とは

1.1 “里浜づくり宣言”とそのねらうところ

里浜づくりの取り組みは、地形条件、過去からの歴史的経緯等の置かれた海岸の実情や地域の人々と海岸とのかかわりにより様々です。しかし、海辺と自分たちの地域とのかかわりについて考え、議論する、その行動が「里浜づくり」のはじまりです。

里浜づくり研究会は、平成15年5月、「日本の海辺を良くするには、何よりも海辺と人々のつながりを回復することから始めなければならない。」という認識の基に、“里浜づくり宣言”を行なっています。

“里浜づくり宣言”では、「里浜」および「里浜づくり」について次のように述べています。

『「里浜」とは、多様で豊かなかつての「海辺と人々とのつながり」を現代の暮らしに適う形で蘇らせた浜のことです。また、「里浜づくり」とは、地域の人々が、海辺と自分たちの地域のかかわりがどうあるべきかを災害防止のあり方をも含めて議論し、海辺を地域の共有空間（コモンズ）として意識しながら、長い時間をかけて、地域の人々と海辺との固有のつながりを培い、育て、つくりだしていく運動や様々な取り組みのことです。』

つまり、「里浜」とは、単にかつての海辺、海辺と人々のつながりを回復するのではなく、現在や今後の海辺と人々のつながりを考え、現代の暮らしに合う形で海辺を蘇らせることであり、そのための運動や取り組みが「里浜づくり」なのです。このため、里浜の姿や「里浜づくり」の方法は、1つではなく、地域によって、地域の人々によって異なるということを十分考慮する必要があります。

「里浜づくり」は、地域の自然と歴史を尊重し、海辺と人々とのつながりを見つめ直すことから始める必要があります、そのアプローチは様々です。このため、本書は、先行する事例より、参考となるヒントやアイデアをとりまとめたものですが、これらのヒントやアイデアがすべてではなく、地域にあった工夫が必要となります。海辺について、地域の人々が考え始めたら、議論を始めたら、試行錯誤しながら活動を始めたら、「里浜づくり」はもう始まっています。各地の海岸において、すでに「里浜づくり」は始まっているかもしれません。

近年、海岸は、高い堤防ができ、危険な場所として、認識され、地域の人々が近づきがたい空間となってしまったため、その災害の危険性や生物の多様性、風景のすばらしさ等、地域の人々が忘れてしまったものも少なくありません。「里浜づくり」は、自分たちの海岸を考えることであり、海岸を考えることで、高潮や津波等の災害の被害を最小限にすることや、そこに存在する生物を保全する、その地域らしい風景を守る等の効果が考えられます。さらに、活動によって、自ら、海岸の清掃や利活用についての活動を行うことや、必要な整備を検討することにも及びます。「里浜づくり」によって、従来、全国一律の基準で高潮対策等として海岸整備を行ってきたために失われたものを取り返すことや、海岸の整備を行政が提案する場合でも、地域にあった整備の方法、形を検討する素地が生まれ、好ましい事業の実施に繋がることも考えられます。